

9.6. 豊北地域の再編方針

9.6.1. 再編のポイント

路線・地域の抱える課題

- ブルーライン交通が運行する路線バスは、豊北中学校や豊北・下関北高校の通学利用を中心に、角島方面の観光などにも利用されているが、一部の通院ニーズに応えられていない。
- 国道 191 号沿線の神玉地域においては、地域内から滝部駅周辺への買い物や通院等のニーズに十分対応できていない。
- 生活バスは主に高齢者等の買い物や通院等で利用されている。

再編の方向性

- 買い物ニーズに対応する地域内の路線を検討する。
- 通院ニーズに対応した運行時間帯の見直しを検討する。
- 交通不便地域に対応する運行を検討する（より小型な車両の活用も検討する）。
- 運転手不足への対応や財政的な負担の軽減等の公共交通網全体のリソースの最適化に向け、利用状況を踏まえた運行回数とし、併せて運行時間帯の変更を行う。

再編内容

ブルーライン交通 島戸-肥中-阿川駅方面

<Step.1>

- 通院等に適した運行時間帯への見直し。

神玉地域

<Step.2>

- 買い物や通院等のニーズに対応するため、国道 191 号沿線の神玉地域と滝部駅周辺を結ぶ路線の検討を行う。

ブルーライン交通 豊浦・豊北線

<Step.2>

- 神玉地域の検討と併せて運行回数の見直しを行う。

生活バス ぐるりん矢玉・二見 循環線

<Step.2>

- 利便性向上のため、利用ニーズを調査したうえで、運行時間帯や運行形態（曜日運行化等）、ルートの見直し等の検討を行う。

生活バス 北宇賀・滝部線

<Step.2>

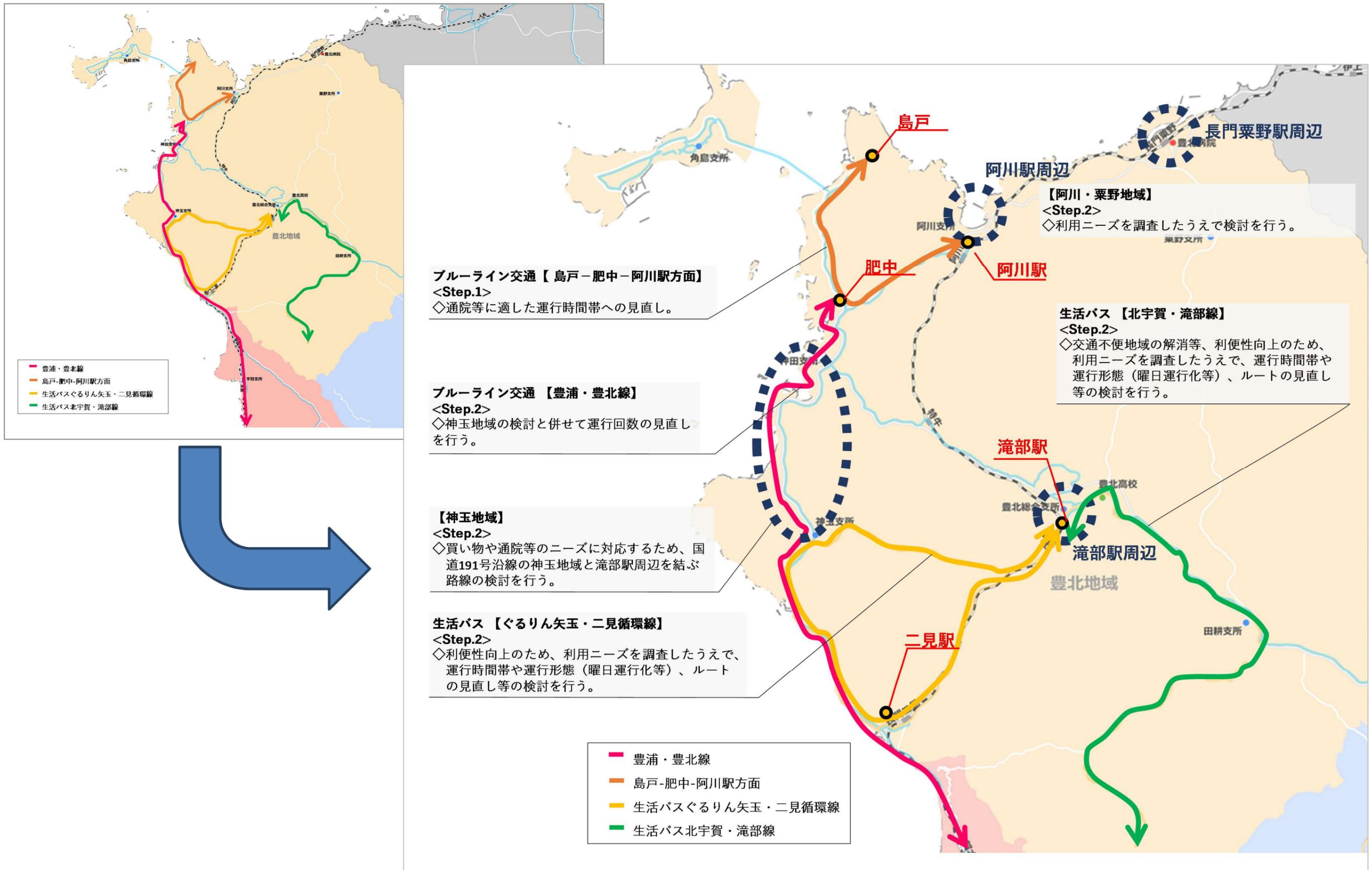
- 交通不便地域の解消等、利便性向上のため、利用ニーズを調査したうえで、運行時間帯や運行形態（曜日運行化等）、ルートの見直し等の検討を行う。

阿川・粟野地域

<Step.2>

- 利用ニーズを調査したうえで検討を行う。

9.6.2. 再編前後の路線網



9.6.3. 路線別の再編内容

(1) 島戸-肥中-阿川駅方面

<Step. 1>

運行の目的	島戸方面から阿川地域への通院ニーズに対応したダイヤとなっていないため、運行時間帯を見直し、通院に利用しやすくする。
運行事業者	ブルーライン交通株式会社
事業の種類	一般乗合
運行の形態	路線定期運行
車両	中型バス
運行日	毎日運行

系統	運行区間		系統キロ	運行回数	
	再編前	再編後			
島戸～阿川	起点	島戸	7.8	阿川駅行 3 便 島戸行 3 便	阿川駅行 2 便 島戸行 4 便
	主な経由地	肥中			
	終点	阿川			

(2) 神玉地域

<Step. 2>

運行の目的	国道 191 号沿線の神玉地域から滝部駅方面へ行く場合、ブルーライン交通により特牛港で乗継が必要である。 国道 191 号沿線の神玉地域から滝部駅方面への買い物・通院等のニーズに対し、ブルーライン交通、もしくは、生活バスによる対応など、今後交通事業者と協議の上、運行内容について検討を行う。	
運行事業者	ブルーライン交通株式会社	下関市
事業の種類	一般乗合	自家用有償
運行の形態	路線定期運行	路線定期運行
車両	中型バス	小型車両
運行日	毎日運行	平日、土曜

(3) 豊浦・豊北線

<Step. 2>

運行の目的	豊浦・豊北線の内、肥中～二見駅間の区間系統については、平均乗車密度 0.3 人程度と低く（H30.10 月～R1.9 月実績）、利用者が非常に少ない時間帯がある。 しかしながら、当該路線沿いに所在する神玉地域の住民の滝部方面への買い物・通院等のニーズがあることから、「(2) 神玉地域」の Step.2 の検討結果を基に、運行回数の見直しを行う。
運行事業者	ブルーライン交通株式会社
事業の種類	一般乗合
運行の形態	路線定期運行
車両	中型バス
運行日	毎日運行

(4) 生活バスぐるりん矢玉・二見循環線

<Step. 2>

運行の目的	生活バスぐるりん矢玉・二見循環線は、豊北総合支所を起点に、矢玉、二見駅を循環する生活バスである。 今後利用実態・ニーズを調査し、買い物等の利便性を考慮したダイヤや運行の時間帯、運行形態（曜日運行化等）、運行ルートの見直しを検討する。
運行事業者	下関市
事業の種類	自家用有償
運行の形態	路線定期運行
車両	小型車両
運行日	平日、土曜日

系統	運行区間		系統キロ	運行回数	
	再編前	再編後			
右回り	起点	豊北総合支所	18.1	2 循環	検 討
	主な経由地	二見駅、矢玉			
	終点	豊北総合支所			
左回り	起点	豊北総合支所	18.1	1 循環	検 討
	主な経由地	矢玉、二見駅			
	終点	豊北総合支所			

(5) 生活バス北宇賀・滝部線

<Step. 2>

運行の目的	生活バス北宇賀・滝部線は、滝部駅から下太田を経由し、笹の本を結ぶ生活バスである。 沿線において交通不便地域となっている集落の高齢化等の実態を考慮しながら、地域の利用実態やニーズを調査し、買い物等の利便性を考慮したダイヤや運行の時間帯、運行形態（曜日運行化等）、運行ルートの見直しを検討する。
運行事業者	下関市
事業の種類	自家用有償
運行の形態	路線定期運行、路線不定期運行
車両	小型車両
運行日	平日、土曜日

系統	運行区間		系統キロ	運行回数	
	起点	滝部駅		再編前	再編後
北宇賀 ・滝部線	起点	滝部駅	14.9	3往復	検 討
	主な経由地	田耕、下太田			
	終点	笹の本			

(6) 阿川・栗野地域他

<Step. 2>

運行の目的	これまで生活バス運行の無い地域については、移動実態・ニーズを調査したうえで、乗り入れ等の検討を行う。
運行事業者	検討
事業の種類	検討
運行の形態	検討
車両	小型車両
運行日	検討

【参考】車両サイズについて

本計画で記載している車両について、車種等による違いはありますが、概ね以下の寸法・定員が目安となります。

タイプ	寸法		定員	イメージ
	全長	全幅		
大型バス	10m 以上	2.3～2.5 m	70 名程度	
中型バス	8～9m	2.3～2.5 m	50 名程度	
小型バス	7m	2.0～2.3 m	30 名程度	
小型車両	5m	1.7 m	10 名程度	